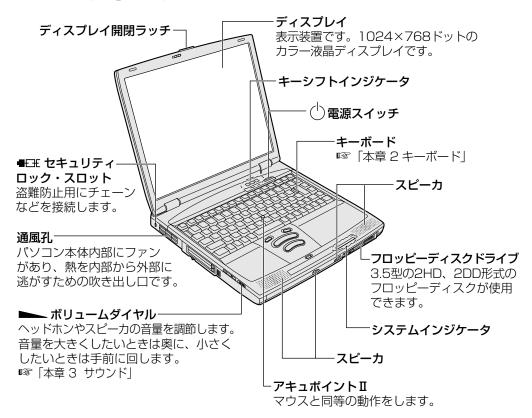
3

本体の機能

本章では、本製品に用意されている機能と、
インタフェースについて説明します。

1 各部の名称

ここでは、各部の名称と機能を簡単に説明します。各部についての詳しい説明は、それぞれに関連する章で行います。周辺機器を取り付ける場所については、「本章 9 インタフェースへの接続」で説明します。

インジケータ

それぞれは、次の状態を示します。

キーシフトインジケータ		
A	Caps Lock LED	文字入力の「大文字ロック状態」 ☞「本章 2- 特殊機能キー」
(アロー)	Arrow Mode LED	文字入力の「アロー状態」 ☞「本章 2- Fn キーを使った特殊機能キー」
(数字)	Numeric Mode LED	文字入力の「数字ロック状態」 ☞「本章 2- Fn キーを使った特殊機能キー」
システムインジケータ		
(DC IN)	DC IN LED	電源コードの接続 ☞「1章 1-3 電源に関する表示」
(電源)	Power LED	電源の状態 ☞「1章 1-3 電源に関する表示」
(バッテリ)	Battery LED	バッテリの状態 ☞「本章 4-1 バッテリ充電量を確認する」
(ディスク)	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
(FDD)/(CD-ROM)	FDD/CD-ROM LED	フロッピーディスクドライブかドライブにアクセスしている

コントロールボタン
クリック、ダブルクリックするときに使います。

スクロールボタン
画面のスクロールなどができます。

ドライブ
内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルによって異なります。
☞ 使用できるCD／DVDについて
➪「本章 6-1 使用できるCD／DVD」

赤外線ポート
赤外線ポートを使って、IrDA方式の赤外線ポートを持つ他の機器と通信が行えます。
赤外線通信を行う機器は、同じ通信用アプリケーションを使用してください。

電源コネクタ
付属のACアダプタを接続します。

バッテリパック
バッテリパックを充電すると、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用できます。
☞ 詳細について ➪「本章 4 バッテリ」

増設メモリスロット
増設メモリが取り付けられます。
☞ 増設メモリの取り付けについて
➪「本章 8 増設メモリ」

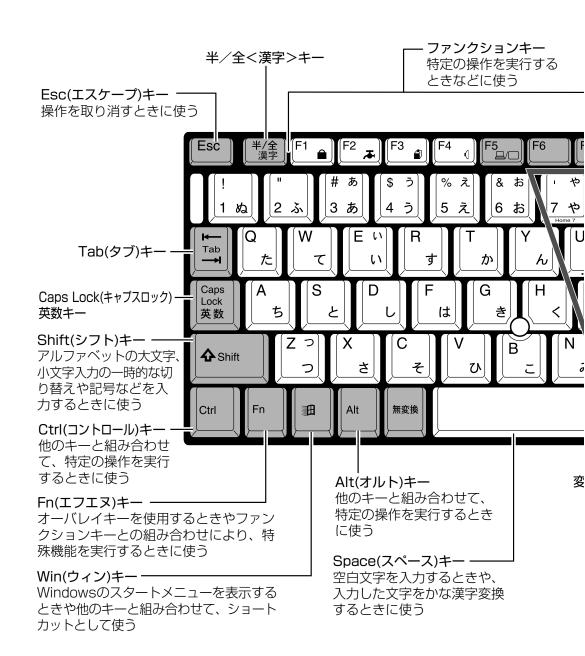
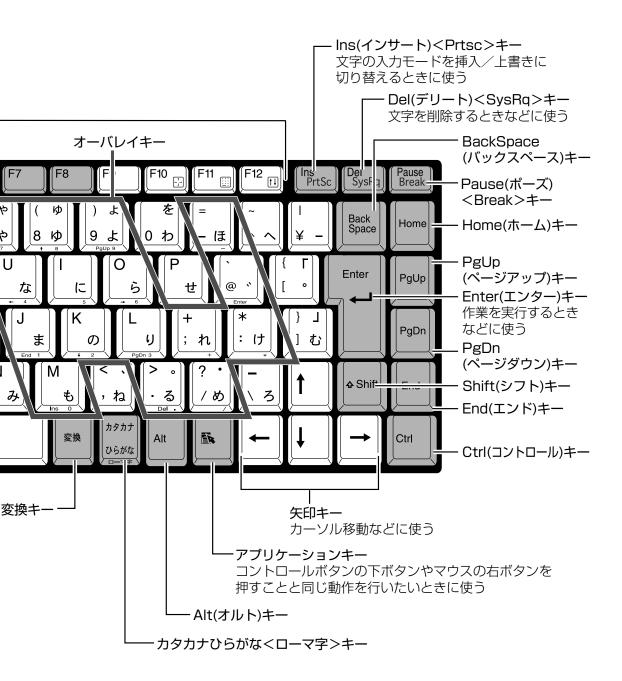
電源コード（国内専用、海外用は別売り）
電源コンセントからACアダプタに電源を供給するケーブルです。

ACアダプタ（国内、海外兼用）
電源コネクタに接続し、パソコン本体に電源を供給します。

モジュラーケーブル
＊モデム内蔵モデルのみ
電話回線と内蔵モデムを接続するケーブルです。

② キーボード

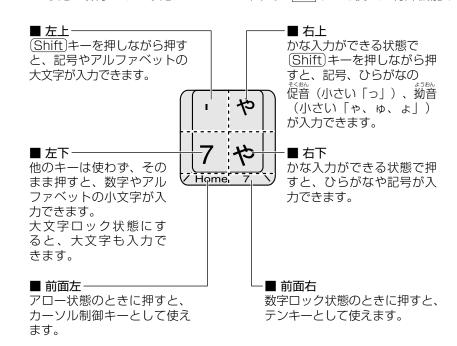
キーボードの使いかたはソフトウェアによって違ってきますが、ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

Ins(インサート)<Prtsc>キー
文字の入力モードを挿入／上書きに
切り替えるときに使う
Del(デリート)<SysRq>キー
文字を削除するときなどに使う
BackSpace
(バックスペース)キー
Pause(ポーズ)
<Break>キー
Home(ホーム)キー
PgUp
(ページアップ)キー
Enter(エンター)キー
作業を実行するとき
などに使う
PgDn
(ページダウン)キー
Shift(シフト)キー
End(エンド)キー
Ctrl(コントロール)キー
オーバレイキー
変換キー
矢印キー
カーソル移動などに使う
アプリケーションキー
コントロールボタンの下ボタンやマウスの右ボタンを
押すことと同じ動作を行いたいときに使う
Alt(オルト)キー
カタカナひらがな<ローマ字>キー

文字キー

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

文字キーに印刷されている２～６種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

☞ かな入力について ➪「本節 - 日本語入力システム（MS-IME）」

☞ アロー状態、数字ロック状態について ➪「本節 - Fn キーを使った特殊機能キー」

Fn キーを使った特殊機能キー

キー	内容
Fn＋F1 〈インスタントセキュリティ機能〉	表示画面をオフにし、キーボードやマウスから入力できなくします。 解除するには、次の操作を行ってください。 パスワードを設定している場合： パスワードを入力し、Enterキーを押す パスワードを設定していない場合： Enterキーまたは F1キーを押す ☞ パスワードについて ➪「4章 4 パスワードセキュリティ」
Fn＋F2 〈省電力モードの設定〉	Fn ＋ F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが反転表示されます。 Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびに省電力モードが切り替わります。
Fn＋F3 〈電源 ON ／ OFF 時に使用する機能の選択〉	電源を切る状態（スタンバイ、休止状態、電源オフ）を切り替えます。Fnキーを押したまま、F3キーを押すたびに表示が切り替わり、電源スイッチを押したときに実行する機能が設定されます。
Fn＋F4 〈アラーム音量の調節〉	アラーム音量を調節します。ビープ音で音量を知らせます。 Fnキーを押したまま、F4キーを押すたびに音量が変わります。 Off→小→中→大
Fn＋F5 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 ☞ 詳細について ➪「本章 9- CRT ディスプレイやテレビを接続した場合」
Fn＋F10（アロー状態） 〈オーバレイ機能〉	キートップ前面左側に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。 アロー状態を解除するには、もう 1 度Fn＋F10 キーを押します。
Fn＋F11（数字ロック状態） 〈オーバレイ機能〉	キートップ前面右側に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。 数字ロック状態を解除するには、もう 1 度Fn＋F11キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excel など）によっては異なる場合があります。
Fn＋F12 （スクロールロック状態）	一部のアプリケーションで↑ ↓ ← →キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう 1 度 Fn＋F12 キーを押します。

3章 本体の機能

⊞キーを使ったショートカットキー

⊞キーと他のキーとの組み合わせにより、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操作
⊞＋R	［ファイル名を指定して実行］画面を表示する
⊞＋M	すべてをアイコン化する
Shift＋⊞＋M	すべてのアイコン化を元に戻す
⊞＋F1	『Windowsのヘルプ』を起動する
⊞＋E	XP 2000 ：［マイコンピュータ］画面を表示する 98 ：Windowsエクスプローラを起動する
⊞＋F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl＋⊞＋F	他のコンピュータを検索する
⊞＋Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
⊞＋Break	［システムのプロパティ］画面を表示する

特殊機能キー

キー	内容
XP 2000 Ctrl＋Shift＋カタカナひらがな 98 Ctrl＋Caps Lock英数	カナロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キートップ右下に印刷されたひらがなを、カタカナで入力できます（＊1）。
Shift＋Caps Lock英数	大文字ロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キートップ左上に印刷された英字などの文字を、大文字で入力できます（＊1）。
Ctrl＋Alt＋Del	XP ［Windowsのタスクマネージャ］画面が表示されます。 2000 ［Windowsのセキュリティ］画面が表示されます。 98 プログラムの強制終了画面が表示されます。 もう1度押すとシステムを再起動します。
Fn＋Ins	現在表示中の全体画面をクリップボードにコピーします。
Fn＋Alt＋Del	現在実行中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

＊1 カナロックや大文字ロック状態を解除するには、もう1度同じキー操作をします。
ロック状態の優先度は、カナロック状態＞大文字ロック状態です。

・Windows 98の場合、システムが操作不能になったとき以外はCtrl＋Alt＋Delキーは使用しないでください。データが消失するおそれがあります。

日本語入力システム（MS-IME）

日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。
本製品には、日本語入力システム MS-IME が標準装備されています。
MS-IME のバージョンはお使いになるモデルによって異なります。

MS-IME2002 ：Windows XP モデル、すべてのシステムのアプリケーションモデル
MS-IME2000 ：Windows 2000 モデル
MS-IME98　　：Windows 98 モデル

起動したときは、英数字の入力ができるようになっていますので、次の方法で日本語を入力できるようにします。

MS-IME2002 の場合

● 半／全 キーを押す

言語バーは次のようになります。

＊画面は Windows 2000 ／ 98 の場合です。

MS-IME2000 ／ MS-IME98 の場合

● 半／全 キー（MS-IME2000 の場合）または Alt ＋ 半／全 キー（MS-IME98 の場合）を押す

ツールバーは次のようになります。

入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。
ローマ字入力とかな入力は次の方法で切り替えられます。

XP 2000 ：Ctrl ＋ Shift ＋ カタカナひらがな キー
98 ：Alt ＋ カタカナひらがな キー

この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。
常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

MS-IME2002 の場合

① 言語バーの［ツール］アイコン（ ）または［入力方式］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
② ［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

MS-IME2000 ／ MS-IME98 の場合

① ツールバーの［プロパティ］アイコン（ ）をクリックする
② ［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、Space キーを押します。
目的の漢字ではない場合は、もう 1 度 Space キーを押して、他の漢字を表示します。
さらに Space キーを押すと、候補の一覧が表示されます。
↑ ↓ キーで選択し、Enter キーを押します。

☞ MS-IME の使いかた ➪『MS-IME のオンラインヘルプ』

ヘルプの起動方法

MS-IME2002 の場合

① 言語バーの［ヘルプ］アイコン（ ）をクリックする
② ［Microsoft(R) IME スタンダード 2002］-［目次とキーワード］をクリックする

MS-IME2000 ／ MS-IME98 の場合

① ツールバーの［ヘルプ］アイコン（ ）をクリックする
② ［目次とキーワード］をクリックする

3 サウンド

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカを用意しています。
スピーカの音量の調整方法について説明します。
標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
サウンド機能はMicrosoft Windows Sound System、およびSound Blaster Proに適合しています。サウンドに関する設定については、あわせて『Windowsのヘルプ』や『ボリュームコントロールのヘルプ』をご覧ください。

・使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカでハウリングを起こし、高く大きな音が発生することがあります。この場合は、次のようにしてください。
  ・本製品のボリュームダイヤルで音量を調整する
  ・使用しているアプリケーションソフトの設定を変える
  ・外部マイクをスピーカから離す

ボリュームダイヤルで調整する

本体左側面のボリュームダイヤルで調整します。
音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。

☞ ボリュームダイヤル ➪「本章 1 各部の名称」

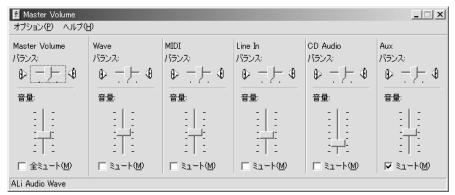
ボリュームコントロールで調整する

1 XP

［スタート］-［すべてのプログラム］-［アクセサリ］-［エンターテイメント］-［ボリュームコントロール］をクリックする

2000 98

［スタート］-［プログラム］-［アクセサリ］-［エンターテイメント］-［ボリュームコントロール］をクリックする

ボリュームコントロールが起動します。

＊画面はWindows 2000の場合です。

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音となります。

詳しくは、『ボリュームコントロールのヘルプ』をご覧ください。

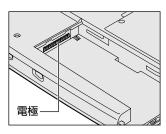
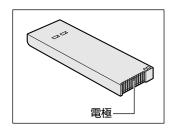
④ バッテリ

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリパックを取り付けます。
ご購入時は、バッテリはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリを充電してからお使いください。

本製品に添付の『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。

☞『安心してお使いいただくために バッテリパックの取り扱いについて』

警 告
・バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック：PABAS011）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

注 意
・バッテリパックの充電温度範囲内（10 ～ 30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
・別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常と思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
・バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリを充電するために、AC アダプタを接続して充電してください。
・バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

・電源が入った状態でのバッテリの充電は、お使いのアプリケーションソフトウエアや周辺機器の動作状態によって充電量が不十分となることがあります。
これは、お使いのアプリケーションソフトウエアや周辺機器の動作状態によってはパソコンの消費電力が大きくなることにより、バッテリを充電する余力がなくなってしまうためです。特に DVD 再生など、CD ／ DVD が動作するアプリケーションソフトウェアをお使いの場合は、充電できない場合があります。確実に充電する場合は、電源を切った状態で充電するか、専用のバッテリチャージャ（別売り）をお使いください。

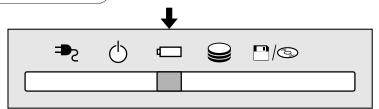
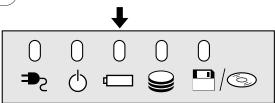
バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリ充電量を確認しておかないと使用中にバッテリの充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわててACアダプタを接続することになります。

バッテリ充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery LEDで確認する

次のシステムインジケータの図で矢印の付いているものが、バッテリの状態を示すアイコンです。

13、14インチモデル

15インチモデル

Battery LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常

アイコンで確認する

タスクバーの［省電力］アイコン の上にマウスポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

● AC アダプタを接続している場合

フルパワー 残り:100% AC 電源オン

● バッテリ駆動で使用している場合

ノーマル 残り:100% X 時間 XX 分

※ 画面は Windows 2000 の場合です。

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。

・タスクバーに表示される［省電力］アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
・「東芝省電力ユーティリティ」の［電源設定］タブの設定内容によっては、タスクバーに［省電力］アイコンが表示されません。表示させたいときは、［電源設定］タブで［タスクバーに省電力モードの状態を表示する］をチェックしてください。

・1ヶ月以上の長期間にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わない場合には、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LED やアイコンで充電量の減少が示されないことがあります。1ヶ月に 1 度は再充電することをおすすめします。

☞ 再充電の方法について ➪「本章 4-4- バッテリを長持ちさせるには」

バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリ充電量の減少が進むと、次のように警告します。

● Battery LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
●警告音（ビープ音）が鳴る

この場合はただちに AC アダプタを接続し、電源を供給してください。

・長時間使用しないで自然に放電しきってしまったときは、警告音でも Battery LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

❷ バッテリを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
パソコン本体にACアダプタを接続すると、電源のON/OFFにかかわらず充電されます。

☞ 電源の接続 ➪「1章 1-1 電源に接続する」

2 Battery LEDが緑色になるまで通電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

☞ Battery LEDについて ➪「本節 1 バッテリ充電量を確認する」

充電時間

充電時間の目安は次のとおりです。

状態	充電時間
電源ON時	約4〜11時間
電源OFF時	約3時間

（注）周囲の温度が低いとき、周辺機器を取り付けている場合など、パソコンの使用状況によってこの時間よりも長くかかることがあります。

使用できる時間

バッテリでの使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。
次の時間は目安にしてください。

●充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	動作時間
標準	約2時間

※ノーマルモードです。

（注）BatteryMark V4.0.1で計測

使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減少します。1ヶ月以上の長期間にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用した場合でも、バッテリ充電量は少しずつ減少します。いずれの場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

●フル充電した状態で電源を切った場合

パソコン本体の状態	保持時間
スタンバイ	約5日間
電源切断（シャットダウン） 休止状態	約3週間

・スタンバイ機能を実行したときは、放電しきるまでの時間が短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われます。普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時計用バッテリ
電源 ON（Power ⏻ LED が点灯）	約 10 時間以上
電源 OFF（Power ⏻ LED が消灯）	ほとんど充電しない

・時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

❸ バッテリパックを交換する

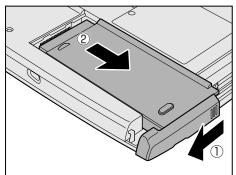
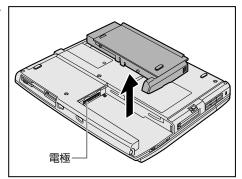
・バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

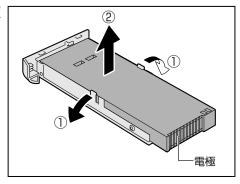
取りはずし／取り付け

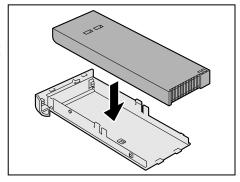
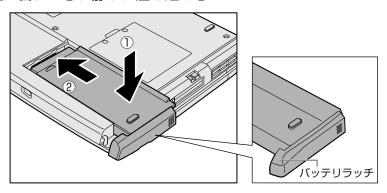
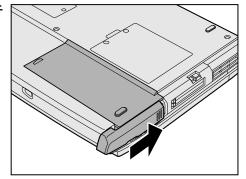
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリラッチを横に押し①、バッテリカバーをスライドさせる②

5 バッテリパックごと、バッテリカバーを取り出す

6 バッテリカバーからバッテリパックを取り出す

バッテリカバーのツメを左右に広げ①、バッテリパックを取りはずします②。

7 交換するバッテリパックをバッテリカバーに取り付ける

新しい、あるいは充電したバッテリパックを注意して取り付けてください。

8 バッテリラッチが手前にずれていることを確認し、バッテリパックをコネクタの位置に合わせ①、静かに差し込む②

9 バッテリラッチをスライドさせ、バッテリパックを固定する

バッテリを節約する

バッテリを充電して、または充電したバッテリパックを交換して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- ●バッテリの充電を完了（フル充電）する
- ●バッテリ駆動で使用した後は、バッテリを充電しておく
- ●スタンバイ状態、休止状態を活用し、こまめに電源を切る
  スタンバイ状態や休止状態とは、電源を切った後、次に電源を入れると、直前の状態を再現することができる機能です。
  ☞ スタンバイ状態、休止状態について ➪「本節 5 東芝省電力ユーティリティ」
- ●パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
  ☞ パネルスイッチ機能 ➪「2章 4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- ●省電力に設定する
  ☞ 省電力設定 ➪「本節 5 東芝省電力ユーティリティ」

バッテリを長持ちさせるには

バッテリを長持ちさせるには、いくつかの方法があります。

- ● ACアダプタをコンセントに接続したままで、パソコンを8時間以上ご使用にならない場合は、ACアダプタをコンセントからはずしてください。
- ● 1ヶ月以上の長期間バッテリを使わないときは、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- ● 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンをお使いください。その際には、パソコンをお使いになる前に、次の手順で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery ▭ LEDが点滅するか、充電量が少なくなったなどの警告が表示された場合は、すみやかにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery ▭ LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery ▭ LEDが緑色になるまで充電する

バッテリ充電中はBattery ▭ LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

東芝省電力ユーティリティ

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。
省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリ消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。

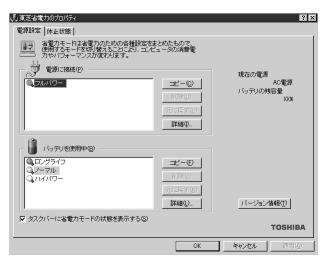
起動方法

1 XP

［スタート］-［コントロールパネル］をクリック -［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック -［東芝省電力］をクリックする

2000 98

［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリック -［東芝省電力］をダブルクリックする

「東芝省電力ユーティリティ」が起動します。
タスクバーの［省電力］アイコン（ ）をダブルクリックしても起動できます。
Windows XPで通知領域のアイコンが隠れている場合は、 ボタンをクリックすると表示されます。

［電源設定］タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。
また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。

［電源に接続］［バッテリを使用中］には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になりたい省電力モードに設定します。［電源に接続］［バッテリを使用中］は AC アダプタに接続している／していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。
これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。
また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、［電源に接続］（AC アダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、［バッテリを使用中］（バッテリを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

省電力モードの作成

1 **新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする**

2 **［コピー］ボタンをクリックする**

［～のコピー］という省電力モードができます。

3 **その省電力モードの名前を変更する**

4 **必要に応じて省電力の設定を変更する**

省電力モードの削除

1 **削除する省電力モードをクリックする**

2 **［削除］ボタンをクリックする**

［元に戻す］ボタンをクリックすると直前に行った削除をキャンセルすることができますが、［OK］ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。

・ご購入時に用意されている４つの省電力モードを削除することはできません。

タスクバーに省電力モードの状態を表示する

［タスクバーに省電力モード状態を表示する］をチェックすると現在の省電力モードを示す［省電力］アイコン（ ）がタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。

［省電力］アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、「東芝省電力ユーティリティ」を開くことができます。

［休止状態］タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合には、［休止状態をサポートする］をチェックします。

・休止状態が有効（［東芝省電力］-［休止状態］タブの［休止状態をサポートする］がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリ充電量が減少すると、休止状態を実行して電源を切ります。休止状態が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

起動方法

1 ［電源設定］タブで利用したい省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。

＊画面はWindows 2000の場合です

［全般］タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

［省電力］タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。

CPU熱制御

CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

CPUの処理速度

バッテリ残量に応じた処理速度を設定します。
バッテリ駆動時間を延ばすには、［低速］で使用する方が効果的ですが、処理速度も遅くなります。

・［CPUの処理速度］を［低速］に設定していても、パソコン使用中のCPUの過熱がおさまらないときは、危険防止のため自動的に電源が切れます（危険防止機能）。この場合は、涼しい場所でしばらくパソコンを放置してからご使用ください。それでも電源が切れる場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。
・危険防止機能が働いて電源が切れたときは、保存していないデータは失われる場合があります。定期的にデータのバックアップを取るようにしてください。

モニタの輝度

画面の輝度（バックライトの明るさ）を変える設定です。画面の輝度を下げる（バックライトを暗くする）ことで、バッテリの消費を抑えられます。

モニタの電源を切る

キーボード、およびアキュポイントII、マウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的にオフにする設定です。画面のバックライトを消灯するので、画面に使用する電力をほぼゼロにすることができ、もっとも省電力の効果があります。

ハードディスクの電源を切る

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクドライブのモータを停止して、バッテリの消費を抑えられます。

システムスタンバイ、システム休止状態

［システム休止状態］は Windows XP／2000 モデルで設定できます。
パソコンを一定時間使用していないときに、自動的にスタンバイ機能を実行、または休止状態にして、システムの動作をオフにすることができます。
システムオフまでの時間を、［システムスタンバイ］、［システム休止状態］のスライダーバーで設定してください。ただし、［システムスタンバイ］は［システム休止状態］より長い時間には設定できません。

・システムオフ時間は、最後にハードウェアにアクセスしてからの時間です。［ハードディスクの電源を切る］で時間を設定した場合は、ハードディスクドライブが停止した後、指定した時間がたつとシステムがオフになります。
・Windows XP／2000 モデルで［システムスタンバイ］と［システム休止状態］を同時に設定している場合、設定した時間後にスタンバイ状態になってから、休止状態になります。
　例）［システムスタンバイ］を５分後、［システム休止状態］を 10 分後に設定したとき
　　５分後にスタンバイ状態になり、さらに５分後に休止状態になります。

［動作］タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、［現在の設定をすべてのモードで使用する］ボタンをクリックします。

スタンバイ機能

スタンバイ機能を実行します。作業を中断したときの状態をメモリに保存します。次に電源を入れると、以前の状態が再現されます。

☞ スタンバイ機能について ➪「2 章 3-1 スタンバイ機能」

休止状態

休止状態にします。パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

☞ 休止状態 ➪「2章 3-2 休止状態」

電源オフ

Windowsを終了して電源を切ります。

●スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここにチェックを入れるとWindowsのパスワードを入力しないとスタンバイや休止状態から復活できないようになります。

［アラーム］タブ

バッテリ残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。

［アラーム］タブは［電源設定］タブで［バッテリを使用中］に登録された省電力モードを選択した場合に表示されます。

フロッピーディスクドライブ

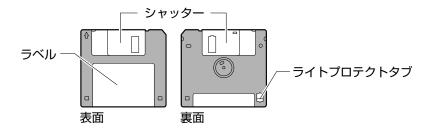
1 フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類と、保存できる容量は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

Windows 用にフォーマットされていないフロッピーディスクを使用する場合は、フォーマットが必要です。

ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

ライトプロテクトタブの状態で、次のようになります。

書き込み禁止状態
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。
データの読み取りはできます。

書き込み可能状態
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

☞ フロッピーディスクの取り扱いについて ➪「6 章 1- フロッピーディスク」

フロッピーディスクのフォーマット

新品のフロッピーディスクを使うときには、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。
新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクを使うときは、必ずフォーマットを行ってください。
他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。
Windows でのフォーマット方法については、『Windows のヘルプ』をご覧ください。

・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

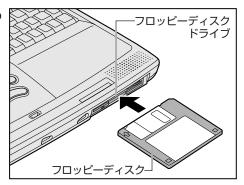
・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものもあります。
・2HD フロッピーディスクを 2DD タイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
・Windows XP をお使いの場合、フォーマットできるフロッピーディスクは 2HD タイプのみ、容量は 1.44MB のみになります。

② フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

フロッピーディスクのセット

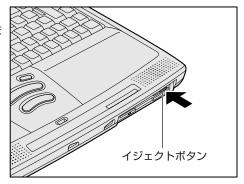
1 フロッピーディスクの隅にかかれている矢印の向きに合わせて挿入する

「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

フロッピーディスクの取り出し

・FDD/CD-ROM 💾/💿 LED が点灯している場合は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れることがあります。

1 **イジェクトボタンを押す**

フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

6 ドライブ

本製品には、ご購入のモデルによって、CD-ROMドライブ／CD-R/RWドライブ／マルチドライブが1台内蔵されています。

本製品のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDをお使いになるときに守っていただきたいことが記述されています。
CD／DVDをお使いになる場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。

☞『安心してお使いいただくために CD／DVDの取り扱いについて』

注 意
- **ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。**
- **FDD/CD-ROM LEDおよびディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。**
- **電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。**
- **ドライブのトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。ケガのおそれがあります。**

・ドライブに保守・修理が必要になった場合には、お近くの保守サービスにご相談ください。

1 使用できるCD／DVD

CD

読み込みできるCD

①音楽用CD
　8cm、12cmの音楽用CDが聴けます。
②フォトCD
③CD-ROM
　使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。
④CDエクストラ
⑤CD-R
⑥CD-RW

・CD-R、CD-RWは、メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

書き込みできるCD

①CD-R
書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
8倍速対応CD-Rメディアをご使用ください。
②CD-RW
1／2／4倍速（マルチスピード）対応CD-RWメディアまたはHigh-Speed CD-RW（4～10倍速）対応メディアをご使用ください。High-Speed CD-RW対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大8倍速になります。

DVD

＊マルチドライブモデルの場合
読み込みできるDVDは、次の種類です。
① DVD-ROM
② DVD-Video
☞ CD／DVDの取り扱いについて ➪「6章 1- CD／DVD」

DVD-Videoの再生について

DVD-Videoの再生には、マルチドライブモデルに同梱の「InterVideo WinDVD」をお使いください。
「InterVideo WinDVD」でDVD-Videoを再生する場合、次のことに気をつけてお使いください。

- DVD-Video再生時は、ACアダプタを接続してください。また、使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。
- DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動しないでください。

「InterVideo WinDVD」のReadmeファイルをよくお読みのうえ、ご使用ください。

・DVD-Video再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CDの再生はサポートしていません。

CD-R／CD-RWへの書き込みについて

CD-R/RWモデル、マルチドライブモデルの場合、CD-R／CD-RWにデータを書き込むことができます。
書き込みを行うためのアプリケーションとして、「DirectCD」「Easy CD Creator」をご用意しています。ご使用の際はCD-R/RWモデル、マルチドライブモデルに同梱のCDからインストールしてください。
CD-R、CD-RWに書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえご使用ください。守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ご使用のパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。
CD-R/RWドライブまたはマルチドライブは書き込みエラーを防ぐバッファーアンダーランエラー防止機能を内蔵していますが、電源切断やドライブへのショックなどの本体異常や、記録メディアの状態などによっては、処理が正常に行えずエラーとなる場合があります。
書き込みに失敗したCD-Rの損害については、当社は一切その責任を負いません。
また、記憶内容の変化・消失など、CD-R、CD-RWに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

書き込む前に

- CD-R メディアに書き込む際には、8 倍速対応の CD-R メディアをご使用ください。
- CD-RW メディアに書き込む際には、1 ／ 2 ／ 4 倍速対応（マルチスピード）の CD-RW メディアまたは High-Speed CD-RW（4 〜 10 倍速）対応メディアをご使用ください。High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大 8 倍速になります。
- 次のメーカの CD-R ／ CD-RW をご使用になることをおすすめします。
  CD-R　：太陽誘電（株）、三井化学（株）、三菱化学（株）、リコー（株）、日立マクセル（株）
  CD-RW　：三菱化学（株）、リコー（株）
  上記以外のメーカの CD-R ／ CD-RW をご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。
- 必ず AC アダプタを接続して電源コンセントに接続してください。
  バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などにより書き込みに失敗するおそれがあります。
- スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウィルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことをおすすめします。
- LAN を経由しての書き込みは行わないでください。LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「DirectCD」「Easy CD Creator」以外の CD-R、CD-RW 書き込み用ソフトウェアは動作保証しておりません。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。
  ☞ 省電力機能について ➪「本章 4-5 東芝省電力ユーティリティ」
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。

・CD-R に書き込みできるのは 1 回限りです。書き込みに失敗した CD-R は再利用できませんが、CD-RW はフォーマットすると再利用できます。

書き込み／削除を行うときは

- アキュポイントⅡを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
  PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、PRT コネクタに接続する機器、PS/2 コネクタに接続する機器、COMMS コネクタに接続する機器
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、必ずデータ書き込み終了後に、データが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「Easy CD Creator」の「data CD project」(データ CD プロジェクト)で、重要なデータを書き込む場合は、メニューバーから［ファイル］-［CD プロジェクトプロパティ］をクリックし、［全般］タブで［書き込み後 CD 上のファイルを検証する］をチェックしてください。
  正常に書き込まれていることを確認できます。

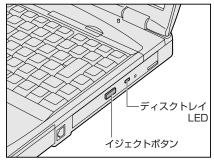
2 CD ／ DVD のセットと取り出し

CD ／ DVD は、電源が入っているときにセット／取り出しができます。
次の場合は、ディスクトレイはイジェクトボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。

・電源を入れた直後
・リセットした直後
・ディスクトレイを閉じた直後
・FDD/CD-ROM 💾/💿 LED が点灯しているとき

これらの場合には、ディスクトレイ LED の点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。

お願い

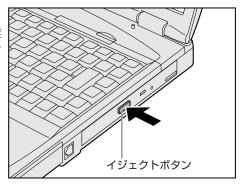
・パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブに CD ／ DVD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。

＊イジェクトボタンやディスクトレイ LED の位置は、ご購入のモデルによって異なります。

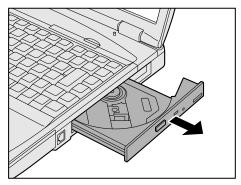
CD／DVDのセット

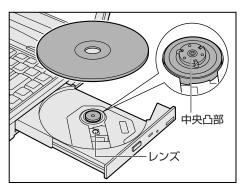
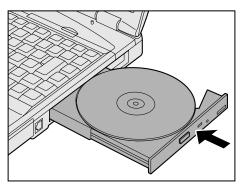
CD／DVDをセットするには、次のように行います。

1 **パソコン本体の電源を入れる**

2 **イジェクトボタンを押す**

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

3 **ディスクトレイを引き出す**

CD／DVDをのせる面がすべて出るまで、引き出します。

4 **文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする**

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 **「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す**

・CD ／ DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
・CD ／ DVD を正しくディスクトレイにセットしないと CD ／ DVD を傷つけることがあります。

・傷ついたり汚れのひどい CD ／ DVD の場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れを拭きとってから再生してください。
・CD ／ DVD の特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

CD ／ DVD の取り出し

1 パソコン本体の電源を入れる

2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

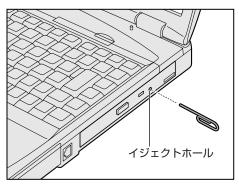
3 ディスクトレイを引き出す

CD ／ DVD をのせる面がすべて出るまで、引き出します。

4 CD ／ DVD の両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

ディスクトレイから CD ／ DVD を取り出します。
CD ／ DVD を取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

・電源を切っているときにイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。故障などで電源が入らない場合は、ドライブのイジェクトホールを、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。

・電源を入れ、ドライブのディスクトレイ LED が点滅しなくなったことを確認してから、ドライブのイジェクトボタンを押してください。点滅しなくなったことを確認しないと、ディスクトレイが出てこない場合があります。

PC カード

目的に合わせたPCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDNカード
- スマートメディアアダプタカード
- SCSIカード
- フラッシュメモリカード　など

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
お使いのPCカードがホットインサーションに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PCカードに付属の説明書』をご覧ください。

メモ

・PCカード接続のハードディスクドライブやCD-ROMドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行った場合、次の現象が発生することがあります。
  ・通信回線の速度が遅くなる
  ・通信回線が切断される
  ・ダイヤルに失敗する
  ・サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できるPCカードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE Ⅱ / Ⅲ対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。
使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よくご確認ください。
スロット0にTYPE ⅢのPCカードを取り付けたときは、スロット1にPCカードを取り付けることはできません。

使用スロット	使用可能タイプ
1（上側）	TYPE Ⅱ
0（下側）	TYPE Ⅱ/Ⅲ

注 意

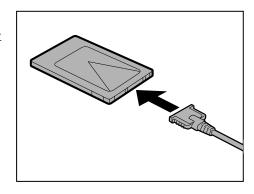
- **ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。**
- **PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。**
- **PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。**

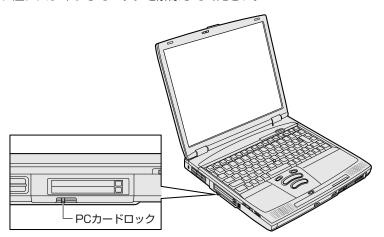
お願い

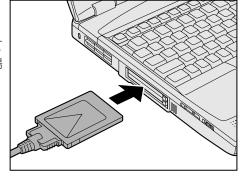
・取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードロックを解除する

図のようにPCカードロックが左側（🔓）にあることを確認してください。右側（🔒）にある場合は、左にスライドしてロックを解除してください。

3 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する

カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードは使用できません。

4 PCカードロックを右側（🔒）にする

カードを接続した後、カードを使用できるように設定されているかどうかを確認してください。

☞ カードの接続および環境の設定方法 ➪『PCカードに付属の説明書』

取りはずし

1 PCカードの使用を停止する

XP

①タスクバーの［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
②表示されたメニューから［XXXXX（取りはずすPCカード名）を安全に取り外します］をクリックする
③「安全に取り外すことができます」が表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2000

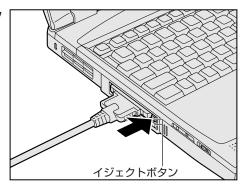
①タスクバーにある［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］アイコン（ ）をダブルクリックする
②表示される画面で、停止するPCカードを選択し、［停止］ボタンをクリックする
③表示される画面で、停止するPCカードを確認し、［OK］ボタンをクリックする
④「安全に取り外すことができます」が表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

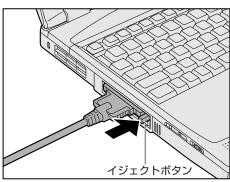
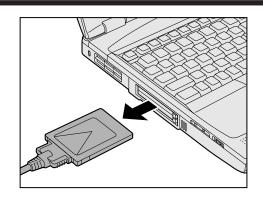
98

①タスクバーにある［PCカード］アイコン（ ）をダブルクリックする
②表示される画面で、停止するPCカードを選択し、［停止］ボタンをクリックする
③「安全に取りはずせます」が表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 PCカードロックを解除（左側）にする

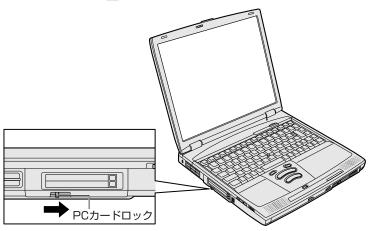
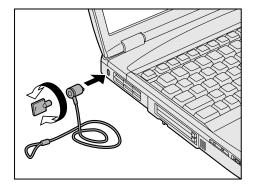
3 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。

4 もう1度イジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

5 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

・カードを引き抜くときは、ケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

PC カードをセキュリティロックする

PC カードロックとセキュリティロックを使用することで PC カードが取りはずせないようにすることができます。PC カードを取り付け後、この操作を行ってください。
またこの操作は必要なときのみ行ってください。

1 PC カードロックを右側（🔒）にする

2 セキュリティロックをする

・セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

8 増設メモリ

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAにはすでに64MB、128MB、256MBのいずれかのメモリが取り付けられています。別売りのメモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることにより最大512MB（256×256）まで拡張することができます。
増設メモリは本製品で動作が保証されている次の種類のものをご使用ください。

Pentiumモデル（Satellite1800SA10AP）	Celeronモデル（Satellite1800SA95C）
タイプY（PC133規格）	タイプT，W（PC100規格）

上記以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。仕様に合わない増設メモリを取り付けると、パソコン本体が起動せず、警告音（ビープ音）が鳴ります。スロットAに取り付けた場合は「ピー・ピッ」、スロットBに取り付けた場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

取り付け／取りはずしのご注意

警告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。**

注意

- **ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。**
- **増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。**
- **次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。**
  - **スタンバイ中**
  - **休止状態中**
  - **LANのウェイクアップ機能を使用しているとき**
  - **電源を切った直後**
    電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。
- **パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。**

お願い

- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

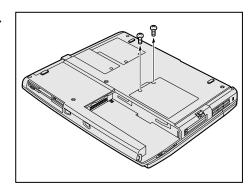
取り付け

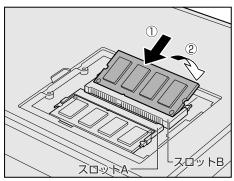
1 **データを保存し、Windows を終了させて電源を切る**

2 **パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす**

3 **パソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす**

☞ バッテリパックの取りはずしかた ➪「本章 4-3 バッテリパックを交換する」

4 **増設メモリカバーのネジ２本をはずし、カバーをはずす**

5 **増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②**

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

6 **増設メモリカバーをつけて、手順４ではずしたネジ２本をとめる**

7 バッテリパックを取り付ける

☞ バッテリパックの取り付けかた ⇨「本章 4-3 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいかどうかを次の方法で確認してください。

① XP

[スタート] - [すべてのプログラム] - [東芝ユーティリティ] - [PC 診断ツール] をクリックする

2000 98

[スタート] - [プログラム] - [東芝ユーティリティ] - [PC 診断ツール] をクリックする

② [基本情報の表示] ボタンをクリックする

③ [メモリ] の数値を確認する

取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

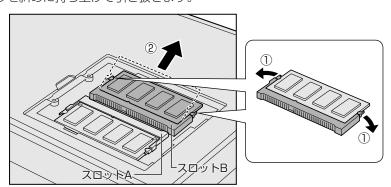
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 パソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

☞ バッテリパックの取りはずしかた ⇨「本章 4-3 バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずし、カバーをはずす

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

増設メモリを斜めに持ち上げて引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 ではずしたネジ 2 本をとめる

7 バッテリパックを取り付ける

☞ バッテリパックの取り付けかた ⇨「本章 4-3 バッテリパックを交換する」

3章 本体の機能

9 インタフェースへの接続

本章で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。
取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各節を読んでから作業をしてください。

注 意 **・電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしが認められていない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。**

お願い

・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
・極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
・静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
・本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して、接続してください。

- **●パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときには、コネクタの上下や方向を合わせる**
- **●ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締める**

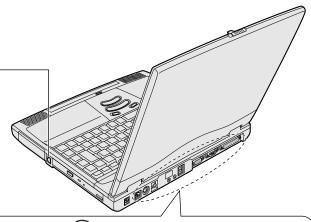
お願い

・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、この他に作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は、使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をご覧ください。

各インタフェースの名称

背面と右側面

モジュラージャック
＊モデム内蔵モデルのみ
モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、モデム機能を使用します。
☞ 電話回線の接続
➪「本節 - 電話回線への接続」

マイク入力端子
マイクロホンを接続します。
・モノラルマイクのみ使用できます。
・プラグは3.5mmφ3極ミニジャックタイプが利用できます。
3.5mmφ2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

ヘッドホン出力端子
ヘッドホンを接続します。音源はステレオで出力されます。ヘッドホンはステレオミニジャックタイプ(3.5φ)を使用してください。

・次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

ビデオ出力端子
映像データの出力端子です。NTSC/PAL規格対応のテレビなどを接続します。
☞ 表示の切り替え
➪「本節 - CRTディスプレイやテレビを接続した場合」

USBコネクタ
USB（Universal Serial Bus）規格の機器が取り付けられます。

RGBコネクタ
CRTディスプレイを接続して使用できます。
☞ 表示の切り替え ➪
「本節 - CRTディスプレイやテレビを接続した場合」

PS/2コネクタ
PS/2対応のキーボードやマウスを取り付けられます。
接続するときは、パソコン本体の電源を必ず切ってください。

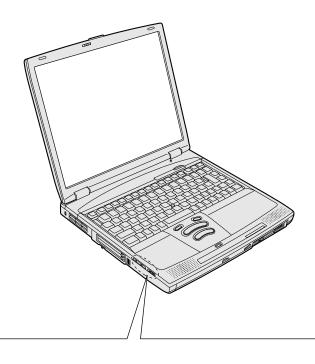
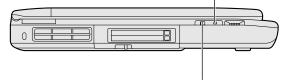
PRTコネクタ
プリンタを接続して使用します。

LANコネクタ
ネットワークケーブルを接続します。
ネットワークに接続するには、ネットワークの設定が必要です。ネットワーク管理者の指示に従って、設定を行なってください。

LANアクティブLED（橙）
データを送受信しているときに点灯します。

リンクLED（緑）
ネットワークに正常に接続され、使用可能なときに点灯します。

COMMSコネクタ
RS-232C規格の機器を取り付けられます。
マウスなどにRS-232C規格のものがあります。

左側面

ワイヤレスコミュニケーションLED
＊無線LANモデルのみ
無線LANの使用状況を表します。
オレンジ点灯：無線LANが使用できます。
消灯　　　　：無線LANは使用できません。

ワイヤレスコミュニケーションスイッチ
＊無線LANモデルのみ
無線LANの使用を切り替えます。
使用するときは左側に、使用しないときは右側に切り替えてください。

無線LANを使用するには、設定が必要です。
詳しくは、「Application CD-ROM」（XP 2000）、「アプリケーション＆ドライバCD-ROM」（98）の『無線LANについて』をご覧ください。

CRTディスプレイやテレビを接続した場合

CRTディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にそのCRTディスプレイを認識します。
テレビを接続した場合、表示装置を切り替えないと、テレビには表示されません。
次の方法でテレビやCRTディスプレイの表示装置を切り替えることができます。

・次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
 ・データの読み込みや書き込みをしている間
  エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
 ・通信を行っている間
  エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

・CRTディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRTディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
・MS-DOSモードを選択している場合、パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示はできません。

方法1－画面のプロパティで設定する

1 XP

［スタート］-［コントロールパネル］をクリック-［デスクトップの表示とテーマ］をクリック-［画面］をクリックする

2000 98

［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 **［画面］をダブルクリックする**

3 **［設定］タブで［詳細］ボタンをクリックする**

4 **［表示デバイス］タブの［表示デバイス］で次のいずれかを選択する**

- LCD .... パソコン本体のディスプレイだけに表示
- LCD／CRT .... パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT .... CRTディスプレイだけに表示
- LCD／TV .... パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示
  ［ディファレントリフレッシュレート］をチェックしてから［LCD／TV］を選択してください。
- TV .... テレビだけに表示

方法２－Fn＋F5キーを使う

Fnキーを押したまま、F5キーを押すたびに次の順序で切り替わります。

LCD（パソコン本体のディスプレイだけに表示）
↓
LCD／CRT（パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示）
↓
CRT（CRTディスプレイだけに表示）

CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

↓
LCD／TV（パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示）

パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示が可能に設定されている場合のみ、この状態に切り替わります。
同時表示する方法については、方法１の手順４をご覧ください。

↓
TV（テレビだけに表示）

パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

CRTディスプレイを接続した場合は、次の方法でも設定することができます。

方法３－［東芝HWセットアップ］で設定する

1 XP

［スタート］-［コントロールパネル］をクリック -［プリンタとその他のハードウェア］をクリック -［東芝HWセットアップ］をクリックする

2000 98

［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリック -［東芝HWセットアップ］をダブルクリックする

2 **［ディスプレイ］タブで［起動時の表示装置］を設定する**

●内部／外部を自動選択 ... CRTディスプレイだけに表示（CRTディスプレイ接続時）
●内部／外部を同時使用 ... パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示

方法４－［セットアッププログラム］で設定する

1 **「セットアッププログラム」を起動する**

☞ 起動方法 ➪「4章 3-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 **［DISPLAY］で［Power On Display］を設定する**

☞「4章 3-4 設定項目」

電話回線への接続

＊モデム内蔵モデルのみ

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを使って2線式の電話回線に接続します。
本装置の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルク、レバノン、ロシア

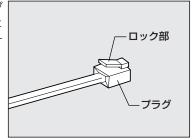
（2002年1月現在）

また、公衆回線網の通信規格は各地域により異なりますので、ご使用になる地域に合わせて設定が必要です。ご購入時は「日本」に設定されています。

☞「本項-地域設定を変更する」

内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。
通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

モジュラーケーブルの取り付け

・モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 **モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む**

ロック部を手前に向けて差し込んでください。

2 **もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む**

ISDN 回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ（TA）またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。

注 意

・内蔵モデムは使用できる地域が限定されます。指定以外の地域で内蔵モデムを使用すると故障のおそれがあります。使用できる地域をよくご確認のうえ、ご使用ください。

・内蔵モデムは一般電話回線（アナログ回線）に接続して使用してください。デジタル回線（ISDN 回線など）には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機（PBX）へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。

・モジュラープラグをモジュラージャックに接続するときは、「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。
・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

・PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行った場合、次の現象が発生することがあります。
  ・通信回線の速度が遅くなる
  ・通信回線が切断される
  ・ダイヤルに失敗する
  ・サウンド再生時に音飛びが発生する

モジュラーケーブルの取りはずし

1 パソコン本体と電話機用モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグを抜く

地域設定を変更する

内蔵されているモデムを、海外で使用する場合は、公衆回線網の通信規格が各地域により異なりますので、ご使用になる地域にあわせて「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で内蔵モデムの地域設定を行ってください。ご購入時は、「日本」に設定されています。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードでご使用ください。
他地域のモードでご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

・Windows XP／2000の場合、「内蔵モデム地域選択ユーティリティ」は、Administratorグループ（コンピュータ管理者）のユーザアカウントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できないことがあります。
・地域設定は「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 XP
[スタート] - [すべてのプログラム] - [TOSHIBA Internal Modem] - [Region Select Utility] をクリックする

2000 98
[スタート] - [プログラム] - [TOSHIBA Internal Modem] - [Region Select Utility] をクリックする

内蔵モデム用地域選択ユーティリティが起動し、タスクバーに［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が表示されます。

2 タスクバーの［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示され、地域名のサブメニューとして、［電話とモデムのオプション］（XP 2000）または［テレフォニー］（98）の所在地情報名が表示されます。
現在設定されている地域設定と、所在地情報名にチェックマークがつきます。

3 使用する地域名、または所在地情報名を選択し、クリックする

地域名を選択した場合、モデムの地域設定を行った後、新しく所在地情報が作成されます。この場合、現在の所在地情報は新しく作成されたものになります。
所在地情報名を選択した場合、その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

その他の設定

「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、その他の設定の確認や変更をする場合は、次の手順で行ってください。

1 タスクバーの［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックする

メニューが表示されます。確認や変更する項目を選択してください。

設定

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

●自動起動モード
　システム起動時に自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。

●地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する
　地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］（XP 2000）、または［テレフォニー］の［ダイヤルのプロパティ］（98）が表示されます。

●場所設定による地域選択
　［電話とモデムのオプション］（XP 2000）、またはテレフォニー（98）の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。

●モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示
　モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］（XP 2000）、または［テレフォニー］（98）の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、注意の画面を表示します。

モデム選択

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

ダイアルのプロパティ

［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］（XP 2000）、または［テレフォニー］の［ダイヤルのプロパティ］（98）が表示されます。

AT コマンド

AT コマンドの説明については、「Application CD-ROM」（XP 2000）、「アプリケーション＆ドライバ CD-ROM」（98）をセットして表示される画面をご覧ください。

内蔵モデム

内蔵モデムを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。
あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、モデムを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

警 告
・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

注 意
・内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
・電源を切った直後には、内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。内蔵モデムの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
・内蔵モデムを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。

取り付け

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
3 パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
4 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ1本をはずし、カバーを取りはずす
5 モデムボードのネジ2本を取りはずす
6 接続コードをモデムボードに取り付ける
7 モデムボードをパソコン本体に取り付ける
8 手順5ではずしたモデムボードのネジ2本をとめる
9 手順4ではずしたカバーをはめ、ネジ1本でとめる
10 バッテリパックを取り付ける

取りはずし

1. データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
2. パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
3. パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
4. 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ１本をはずし、カバーを取りはずす
5. モデムボードのネジ２本を取りはずす
6. 接続コードをモデムボードから取りはずす
7. モデムボードをパソコン本体から取りはずす
8. 手順５ではずしたモデムボードのネジ２本をとめる
9. 手順４ではずしたカバーをはめ、ネジ１本でとめる
10. バッテリパックを取り付ける

4

システム構成とパスワードセキュリティ

本章では、パソコン本体のシステム構成の設定や、
パスワードの登録／削除などについて説明します。

システム構成の設定

パソコン本体のシステム構成は、セットアッププログラムで設定します。
通常は、Windows上の「東芝HWセットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などでの設定をおすすめします。

セットアッププログラムとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。

・ご使用のシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
・セットアッププログラムで設定した内容は、内蔵バッテリで保持するため、電源を切っても消えません。ただし、内蔵バッテリが消耗した場合は標準設定値に戻ります。

東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」は、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

起動方法

1 XP

［スタート］-［コントロールパネル］をクリック-［プリンタとのその他のハードウェア］をクリック-［東芝HWセットアップ］をクリックする

2000 98

［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリック-［東芝HWセッ トアップ］をダブルクリックする

・「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「HWセットアップの起動禁止」に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力すると、「東芝HWセットアップ」は起動しません。

☞「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
➪「本章 4-2 スーパーバイザパスワード」

［全般］タブ

セットアップブログラムのバージョンなどを表示します。

● ［標準設定］ボタン
東芝HWセットアップの設定をご購入時の状態に戻します。

● ［バージョン情報］ボタン
東芝HWセットアップのバージョンを表示します。

［パスワード］タブ

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの設定や削除を行います。

☞ パスワードについて ➪「本章 4 パスワードセキュリティ」

［デバイスの設定］タブ

パソコンが起動したときにセットアッププログラムが初期化する装置を指定します。

デバイスの設定

● 全デバイス設定
すべての装置を初期化します。

● OSによる設定（標準値）
システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

［プリンタ］タブ

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。ご使用になるプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。

プリンタポートモード

● ECP（標準値）
ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。

● 双方向
双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用する場合に設定します。

［ポインティング装置］タブ

アキュポイントⅡや PS/2 マウスについて設定します。

ポインティング装置

● 内部 / 外部を自動選択（標準値）
システム起動時に、PS/2 マウスが接続されている場合は、PS/2 マウスだけが使用できます。システム起動時に、PS/2 マウスが接続されていない場合は、アキュポイントⅡだけが使用できます。

● 内部 / 外部を同時使用
アキュポイントⅡと PS/2 マウスを同時に使用できます。

・PS/2 マウスの仕様によっては、［内部 / 外部を同時使用］に設定しても、アキュポイントⅡと同時に使用できない場合があります。その場合は、［内部 / 外部を自動選択］に設定し、PS/2 マウスだけで使用してください。

［ディスプレイ］タブ

表示する装置を選択します。

起動時の表示装置

● 内部 / 外部を自動選択（標準値）
システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。

● 内部 / 外部を同時使用
外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。
☞ 表示の切り替え ➪「3 章 9- CRT ディスプレイやテレビを接続した場合」

［CPU］タブ

Intel® Pentium® III Processor モデルのみ表示されます。
CPU の操作について設定します。

プロセッサシリアル番号

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

● 有効にする

● 無効にする（標準値）

[OSの起動] タブ

OSの起動について設定します。

OSの起動

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。
通常は[HDD→FDD→CD-ROM→LAN]に設定してください。

起動装置の選択メッセージ

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

● 表示する(標準値)

メニュー起動メッセージを表示します。
電源を入れると、次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

Press [F12] for the boot device selection menu

このメッセージが表示されている間に F12 キーを押すと、起動するドライブの選択メニュー画面が表示されます。起動したいドライブに対応したキーを押すと、一時的にそのドライブを起動最優先ドライブに設定し、起動します。選択するキーは次のようになっています。

C キー･･･ドライブ*から起動します。
N キー･･･内蔵LANから起動します。
F キー･･･フロッピーディスクドライブから起動します。
1 キー･･･パソコン本体のハードディスクドライブから起動します。
P キー･･･PCカードタイプ(TYPE IIまたはTYPE III)のハードディスク(別売り)から起動します。
D キー･･･通常の設定された起動ドライブから起動します。

*ドライブが内蔵されていない場合、使用できません。
外付けCD-R/RWドライブ(型番:PACDR002)を接続すると使用できます。

なお、これらのキーによって設定は変更されません。

・電源を入れたときや再起動時に、キーを押し続けた場合は、設定内容と違うドライブから起動することができます。

● 表示しない

メニュー起動メッセージを表示しません。

[キーボード] タブ

キーボードについて設定します。

外部キーボードのFnキー割り当て

PS/2コネクタに接続した外部キーボードで、Fn キーの代わりに使用できるキーを設定します。
Fn キーの割り当てをしない場合は、[無効]に設定します。

［USB］タブ

USB 対応機器について設定します。

USB レガシーサポート

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

● 有効にする（標準値）
  レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。

● 無効にする
  レガシーサポートを行いません。

［LAN］タブ

LAN 機能について設定します。

LAN のウェイクアップ

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。Wake-up on LAN 機能とも呼びます。
LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

● 使用する

● 使用しない（標準値）

内蔵 LAN

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。通常は［使用する］に設定してください。

● 使用する（標準値）

● 使用しない

［アラーム］タブ

本体のアラーム音について設定します。

アラームの設定

● アラーム音量
  アラームの音量をスライダーバーで調整します。
  次のなかからアラームを鳴らす項目をチェックします。
  ・バッテリ消耗時にアラーム音を鳴らす
  ・パネルを閉じたときにアラーム音を鳴らす

● システムビープ音を鳴らす
  バッテリ消耗時、パネルを閉じたとき以外のアラーム音を鳴らす場合はチェックします。

ヘルプの起動方法

1 **［東芝 HW セットアップ］を起動後、画面右上の ? をクリックする**

ポインタが ?? に変わります。

2 **画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする**

セットアップログラム

セットアッププログラムを起動する方法

・「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「HW セットアップの起動禁止」に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力した場合には、セットアッププログラムは起動しません。

☞「スーパーバイザパスワード設定ツール」について

➪「本章 4-2 スーパーバイザパスワード」

Esc キーで起動する

1 Esc キーを押しながら電源を入れる

「Password =」と表示されれた場合は、パスワードが登録されています。
パスワードを入力し、Enter キーを押してください。

☞ パスワードについて ➪「本章 4 パスワードセキュリティ」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

セットアッププログラムが起動します。

MS-DOS 上から起動する（98）

Windows 98 のみ使用できます。
Windows XP／2000 の場合、MS-DOS 上からは起動できません。

1 ［スタート］-［Windows の終了］-［MS-DOS モードで再起動する］を選択する

［スタート］-［プログラム］-［MS-DOS プロンプト］からは起動できません。

2 C D Space ¥ T O S S E T と半角英数字で入力し、Enter キーを押す

プロンプトが「C:¥TOSSET>」になります。

3 U S と半角英数字で入力し、Enter キーを押す

英語モードに切り替わります。

4 T S E T U P と半角英数字で入力し、Enter キーを押す

セットアッププログラムが起動します。

② セットアッププログラムを終了する方法

変更した内容を有効にして終了します。

1 **End キーを押す**

画面にメッセージが表示されます。

2 **Y キーを押す**

設定内容が有効になり、セットアッププログラムが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

セットアッププログラムを途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。
この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

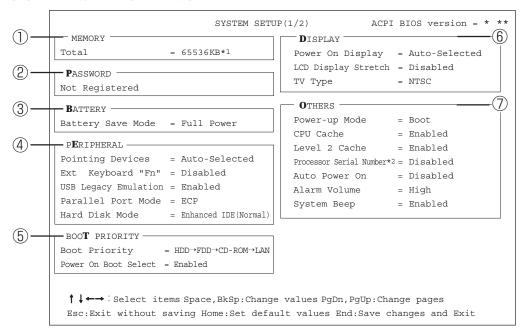
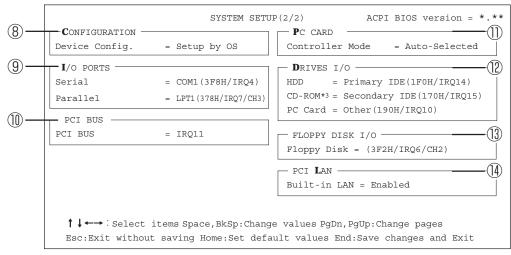
1 **Esc キーを押す**

画面にメッセージが表示されます。

2 **Y キーを押す**

セットアッププログラムが終了します。

❸ セットアッププログラムの画面

セットアッププログラムには次の２つの画面があります。
（注）画面は標準設定値の表示例です。

＊１　モデルによって異なります。
＊２　Intel® Pentium® III Processor モデルのみ表示されます。
＊３　ドライブが内蔵されていない場合、表示されません。

☞ 設定項目の詳細について ➪「本節 4 設定項目」

基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目の選択方法

セットアッププログラム画面中、反転している部分が現在変更できる項目です。
変更する項目に移動するには、↑、↓、←、→キーを使います。

項目の内容の変更方法

Space または BackSpace キーを押す
項目の内容が変わります。

画面を切り替える方法

PgDn または PgUp キーを押す
次の画面または前の画面に切り替わります。

設定内容を標準値にする方法

Home キーを押す
次にあげる項目以外は、設定内容が標準設定になります。

・PASSWORD
・Hard Disk Mode
・Write Policy

設定項目

カーソルが移動しない項目は、参照のみで変更できません。
本項では、標準設定値を「標準値」と記述します。

① MEMORY メモリ容量を表示する

▼ Total

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

② PASSWORD ユーザパスワードの登録／削除をする

☞ ユーザパスワードの登録／削除の方法 ➪「本章 4-1 ユーザパスワード」

▼ Not Registered

ユーザパスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

▼ Registered

ユーザパスワードが設定されているときに表示されます。

③ BATTERY バッテリで長く使用するための設定をする

▼ Battery Save Mode

バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power（標準値）	●Low Power	●User Setting（設定例）
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed= Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off= 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off= 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min	System Auto Off = 30Min
LCD Brightness = Bright *1 Super-Bright *2	LCD Brightness = Semi-Bright *1 Bright *2	LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

（注）System Auto Off（システム自動停止時間）は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。LCD Brightness（LCD 輝度）の表示は次の状態で変わります。

＊1　バッテリ駆動時
＊2　AC アダプタ使用時

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・High .... 処理速度を高速に設定する
・Low................................. 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

・Enabled .... 電力消費を低減する
・Disabled .... 電力消費を低減しない

・一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

● Display Auto Off（表示自動停止時間）

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやアキュポイントⅡの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。
画面に表示するには、Shift キーを押すか、マウス、アキュポイントⅡを操作してください。

・Disabled .... 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off（HDD 自動停止時間）

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。
自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

・ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

● LCD Brightness（LCD 輝度）

画面の明るさを選択します。

・Semi-Bright .... 低輝度に設定する
・Bright .... 高輝度に設定する
・Super-Bright................ 最高輝度に設定する

● Cooling Method（CPU熱制御方式）

CPUの熱を冷ます方式を選択します。

- ・Maximum Performance ... CPU温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。
- ・Performance .... CPUが高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。
- ・Battery Optimized ..... CPUが高温になったときに、CPUの処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

・CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。高熱状態が続く場合は、自動的にレジューム機能を効かせた状態で電源を切り、パソコンを故障から守ります。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、↑ ↓キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

④ PERIPHERAL　HDDや外部装置の設定をする

▼ Pointing Devices（ポインティング装置）

アキュポイントⅡを使用するか、外部PS/2マウスを使用するかを設定します。

- ・Auto-Selected（標準値）
  .... アキュポイントⅡまたはPS/2マウスどちらか1つを使用する
  PS/2マウスを接続している場合は、PS/2マウスだけが使用できます。PS/2マウスを接続していない場合は、アキュポイントⅡが使用できます。
- ・Simultaneous アキュポイントⅡとPS/2マウスを同時に使用する

▼ Ext Keyboard "Fn"

外部キーボードのFnキーの割り当てをします。

- ・Disabled（標準値）...... Fnキーの代替えキー割り当てをしない
- ・Enabled .... 次のキーをFnキーの代替えキーとして割り当てる
  - ・Left Alt+Left Shift
  - ・Left Ctrl+Left Alt
  - ・Right Ctrl+Right Alt
  - ・Right Alt+Right shift
  - ・Left Alt+CapsLock

▼ USB Legacy Emulation

USB キーボード／マウスのエミュレーションを設定します。

・Disabled .... USBキーボード／マウスのレガシーサポートを行わない
・Enabled（標準値）....... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／マウスが使用可能になります。

・この USB Legacy Emulation は、USB マウス、USB キーボードだけに適用されます。USB マウスと USB キーボードを使用する場合は、パソコンを起動する前にマウス、キーボードを接続しておく必要があります。

▼ Parallel Port Mode

パラレルポートモードの設定をします。

・ECP（標準値）............... ECP 対応に設定する
大半のプリンタでは、ECP に設定します。
・Std.Bi-Direct. .... 双方向に設定する
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定します。

・Windows を使用している場合は「東芝 HW セットアップ」の設定が有効になり、「Parallel Port Mode」の設定は無効になります。

▼ Hard Disk Mode

ハードディスクのモードを設定します。
項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

・Enhanced IDE(Normal)（標準値）
.... 通常はこちらを選択する
・Standard IDE .... Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

⑤ BOOT PRIORITY　ブート優先順位を設定する

▼ Boot Priority

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

・HDD → FDD → CD-ROM → LAN（標準値）
・FDD → HDD → CD-ROM → LAN
・HDD → CD-ROM → LAN → FDD
・FDD → CD-ROM → LAN → HDD
・CD-ROM → LAN → HDD → FDD
・CD-ROM → LAN → FDD → HDD

（FDD → HDD → CD-ROM → LAN から CD-ROM → LAN → FDD → HDD まで）指定のドライブ順に起動する

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

・電源を入れたときや再起動時に、次のキーを押し続けると、設定内容と違うドライブから起動することができます。
C キー ... ドライブから起動します。
N キー ... 内蔵 LAN から起動します。
F キー ... フロッピーディスクドライブから起動します。
1 キー .... パソコン本体のハードディスクドライブから起動します。
P キー .... PC カードタイプ（TYPE Ⅱまたは TYPE Ⅲ）のハードディスク（別売り）から起動します。
D キー ... 通常の設定された起動ドライブから起動します。
なお、これらのキーによって設定は変更されません。

▼ Power On Boot Select

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定をします。
・Enabled（標準値）....... メニュー起動メッセージを表示する
・Disabled .... メニュー起動メッセージを表示しない
「Enabled」に設定した場合は電源を入れると「Press［F12］for the boot device selection menu」というメッセージが表示されます。F12キーを押して表示されるメニューから起動するドライブを選択します。選択するキーは次のようになっています。
C キー･･･ドライブ＊から起動します。
N キー･･･内蔵 LAN から起動します。
F キー･･･フロッピーディスクドライブから起動します。
1 キー･･･パソコン本体のハードディスクドライブから起動します。
P キー･･･PC カードタイプ（TYPE Ⅱまたは TYPE Ⅲ）のハードディスク（別売り）から起動します。
D キー･･･通常の設定された起動ドライブから起動します。

＊ドライブが内蔵されていない場合、使用できません。
外付け CD-R/RW ドライブ（型番：PACDR002）を接続すると使用できます。

なお、これらのキーによって設定は変更されません。

・電源を入れたときや再起動時に、キーを押し続けた場合は、設定内容と違うドライブから起動することができます。

⑥ DISPLAY　表示装置の設定をする

▼ Power On Display

表示装置を選択します。
・Auto-Selected（標準値）
.... システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
・Simultaneous .... 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する

・SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

▼ LCD Display Stretch

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

・Enabled .... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
表示モードによっては伸張しない場合があります。

・Disabled（標準値）...... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

▼ TV Type

テレビ受信機を選択します。

・NTSC(JAPAN)（標準値）... 日本と米国仕様のテレビ受信機

・PAL .... ヨーロッパ仕様のテレビ受信機

⑦ OTHERS その他の設定をする

▼ Power-up Mode（レジューム機能）

レジューム機能を設定します。

・Boot（標準値）............. レジューム機能を無効にする

・Resume .... レジューム機能を有効にする

▼ CPU Cache（キャッシュ）

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・Disabled .... キャッシュメモリを使用しない

・Enabled（標準値）....... キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。
次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

・Write-back（標準値）.. 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。

・Write-through .... 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

▼ Level 2 Cache

２次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。
「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

・Enabled（標準値）....... ２次キャッシュを使用する

・Disabled ２次キャッシュを使用しない

▼ Processor Serial Number

＊Intel® Pentium® III Processor モデルのみ

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

・Disabled（標準値）…… 無効にする
・Enabled ……………………… 有効にする

・「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「プロセッサシリアルナンバー項目の非表示」に設定している場合、パソコンの電源を入れてユーザパスワードを入力したときには表示されません。

▼ Auto Power On（タイマ・オン機能）

・Windows 98 を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windows 98 を使用している場合は Windows のタスクスケジューラを使用してください。
・タイマ・オン機能は 1 回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定状態を示します。

・Disabled（標準値）…… タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
・Enabled ……………………… タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。
次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は Space または BackSpace キーで行います。時と分、月と日の切り替えは ↑ ↓ キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

・Disabled …………………… 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

・Disabled …………………… 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。
また、この機能は PC カードタイプのモデムで使用できます。ただし、スタンバイ状態時のみ実行できます。

・Disabled（標準値）…… リングインジケータ機能を使用しない
・Enabled ……………………… リングインジケータ機能を使用する

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。
Wake-up on LAN機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

・Enabled........................ Wake-up on LAN機能を使用する
・Disabled .... Wake-up on LAN機能を使用しない

・パスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能（Auto Power On）を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動し「Password=」と表示されます。パスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。
インスタントセキュリティとは、画面表示をオフにし、キー入力（アキュポイントⅡ、マウスを含む）もできない状態のことです。

▼ Alarm Volume

アラームの音量を設定します。

・High（標準値）............. 大きな音でアラーム音を鳴らす
・Medium .... HighとLowの中間レベルの音でアラーム音を鳴らす
・Low............................... 小さな音でアラーム音を鳴らす
・Off................................. アラーム音を鳴らさない

「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウが開きます。

次に「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Low Battery Alarm

バッテリ消耗時の警告音を設定します。

・Enabled（標準値）....... 警告音を鳴らす
・Disabled .... 警告音を鳴らさない

● Panel Close Alarm

ディスプレイが閉じられたことを知らせる警告音を設定します。

・Enabled（標準値）....... 警告音を鳴らす
・Disabled .... 警告音を鳴らさない

▼ System Beep

「Low Battery Alarm」「Panel Close Alarm」以外のビープ音を鳴らすかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）....... システムビープ音を鳴らす
・Disabled .... システムビープ音を鳴らさない

▼ Panel Power On/Off（パネルスイッチ機能）

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

・Enabled........................ パネルスイッチ機能を使用する
・Disabled（標準値）...... パネルスイッチ機能を使用しない

⑧ CONFIGURATION

▼ Device Config.（デバイス・コンフィグ）

ブート時にBIOSが初期化するデバイスを指定する

・Setup by OS（標準値）... OSをロードするのに必要なデバイスのみ初期化する それ以外のデバイスはOSが初期化します。この場合、「PCカード」内の設定は「Auto-Selected」固定となり、変更できません。

・All Devices .... すべてのデバイスを初期化する

・プレインストールされているOSを使用する場合は、「All Devices」を選択します。

⑨ I/O PORTS

I/Oポートの設定をする

▼ Serial

シリアルポートの割り当てを設定します。

・Not Used..................... シリアルポートを割り当てない

・COM1（標準値）
・COM2
・COM3
・COM4

（COM1〜COM4）指定のポートを割り当てる

▼ Parallel

パラレルポートの割り当てを設定します。
「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。
「OPTION」ウィンドウの項目について次に説明します。

● DMA

ＤＭＡチャネルを設定します。
「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

⑩ PCI BUS

PCIバスの割り込みレベルを表示する

▼ PCI Bus

PCIバスの割り込みレベルを表示します。
変更はできません。

⑪ PC CARD

PCカードのモードを選択する

▼ Controller Mode

PCカードのモードを選択します。

・Auto-Selected（標準値）
.... Windows XP／2000／98などの、Plug & Play に対応したOSを使用している場合、選択します。

・CardBus/16-bit .... Windows NT（Ver.4以下）を使用しているとき、または、Auto-Selectedで正常に動作しないCard Bus対応のPCカードを使用する場合に選択します。

・PCIC Compatible .... Windows NT（Ver.4以下）を使用しているとき、または、Auto-SelectedやCardBus/16 - bitで正常に動作しない16 - bit PCカードを使用する場合に選択します。

⑫ DRIVES I/O

HDDやドライブの設定

▼ HDD

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。
変更はできません。

▼ CD-ROM

＊ドライブが内蔵されていない場合、表示されません。
ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。
変更はできません。

・内蔵されているドライブがCD-ROMドライブではない場合も、すべて［CD-ROM］と表示されます。

▼ PC Card

システムを起動できるPCカードのタイプ（TYPE ⅡまたはTYPE Ⅲ）のハードディスク（別売り）をPCカードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

⑬ FLOPPY DISK I/O

▼ Floppy Disk

フロッピーディスクドライブのアドレス、割り込みレベル、チャネルの設定を表示します。変更はできません。

⑭ PCI LAN

▼ Built-in LAN

内蔵LANの機能を有効にするかどうかの設定をします。

・Enabled（標準値）....... 有効にする
・Disabled .... 無効にする

パスワードセキュリティ

本製品では、電源を入れたとき、スタンバイ状態や休止状態、インスタントセキュリティ状態から復帰するときにパスワードの入力を要求するパスワードセキュリティ機能を設定できます。
パスワードには、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードがあります。
通常はユーザパスワードを登録してください。
スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人のために用意されています。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、セットアッププログラムの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。
ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードに関して、次の表をご覧ください。
本節では、の設定方法、キーフロッピーディスク*1 の作成方法、スーパーバイザパスワードプログラムについて説明します。

ユーザパスワード		スーパーバイザパスワード
設定方法	キーフロッピーディスク*1の作成	
・東芝HWセットアップ ・セットアッププログラム ※「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。	セットアッププログラム	スーパーバイザパスワード設定ツール ☞「本節 2 スーパーバイザパスワード」

*1 ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。

・パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
パスワードは「＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。
よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号（単独のキーで入力できる文字の一部）	− ^ @ [ ] ; : , . / （スペース）
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・単独のキーで入力できない（入力するときにShiftキーなどを使用する）文字 【例】｜（バーチカルライン）、&（アンド）、~（チルダ）など ・￥（エン） |￥_キーや\ろキーを押すと￥が入力されます。	

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録

キーフロッピーディスクを作成したい場合は、「セットアッププログラム」で登録してください。また、その場合フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。

東芝HWセットアップでの登録

1 XP

［スタート］-［コントロールパネル］をクリック-［プリンタとその他のハードウェア］をクリック-［東芝HWセットアップ］をクリックする

2000 98

［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリック-［東芝HWセットアップ］をダブルクリックする

2 **［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［登録］をチェックする**

パスワードが登録されている場合は、［登録］にチェックがついています。その場合は、パスワードを削除してから登録してください。

☞ パスワードの削除 ➪「本節 1-ユーザパスワードの削除」

3 **［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする**

4 ［パスワードの確認］に同じパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

5 表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

セットアップ プログラムでの登録

1 セットアップププログラムを起動する

☞「本章 3-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワード入力画面が表示されます。
パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

☞ パスワードの削除方法 ➪「本節 1- ユーザパスワードの削除」

3 ユーザパスワードを入力する

パスワードは 10 文字以内で入力します。入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

☞ 入力できる文字 ➪「本節 - パスワードとして使用できる文字」

4 Enterキーを押す

1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2 回目のパスワードを入力する

パスワードは手順 3 と同じパスワードを入力してください。入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

6 Enterキーを押す

ユーザパスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、Endキーを押す

次のようなメッセージが表示されます。

```
Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.
```

8 キーフロッピーディスクを作成する

次の「キーフロッピーディスクの作成手順」に従って操作してください。
セットアップの内容が正しければ、Yキーを押します。Nキーを押すと、セットアップ画面に戻ります。

キーフロッピーディスクの作成手順

ユーザパスワードを忘れた場合に使用する、キーフロッピーディスクを作成します。
キーフロッピーディスクが必要ない場合は、フロッピーディスクをセットしないで、Y キー を押してください。そのまま終了します。

☞ キーフロッピーディスクの使いかた
➪「本節　1-ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

①フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクをセットする

注 意　・壊されては困るデータの入っているフロッピーディスクは使用しないでください。データが消失します。

② Y キーを押す

次のメッセージが表示されます。

```
Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)
```

③セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は 1 キーを、2DDの場合は 2 キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。
フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Remove the password service disk, then press any key.
```

④フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

ユーザパスワードの削除

東芝HWセットアップでの削除

1 XP

［スタート］-［コントロールパネル］をクリック-［プリンタとその他のハードウェア］をクリック-［東芝HWセットアップ］をクリックする

2000　98

［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリック-［東芝HWセットアップ］をダブルクリックする

2 **［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［未登録］をチェックする**

3 **［パスワードの入力］に登録してあるパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする**

4 **表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする**

・パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

セットアップ プログラムでの削除

1 セットアッププログラムを起動する

☞「本章 3-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、Spaceまたは BackSpaceキーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるユーザパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

ユーザパスワードが削除されます。

入力したユーザパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

・入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合には、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。

また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。

・キーフロッピーディスクは、スタンバイ状態、休止状態（98）実行時には使用できません。これらの機能を実行中に、パスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。
パスワードの解除を保守サービスに依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要です。

①「Password=」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、Enterキーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

```
Set Password Again ? (Y/N)
```

②ユーザパスワードを再設定する場合は、Yキーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本節 1- セットアッププログラムでの登録」の手順2以降を行ってください。再設定後、システムが再起動します。

ユーザパスワードを再設定しない場合は、Nキーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

```
Remove the Disk,then press any key
```

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードの削除を行ってから、登録を行ってください。

☞「本節 1-ユーザパスワードの削除」、「本節 1-ユーザパスワードの登録」

2 スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。「スーパーバイザパスワード設定ツール」は、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更をするためのユーティリティです。

・パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

起動方法

1 ［スタート］-［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

詳しくは、「README.HTM」をご覧ください。

「README.HTM」の起動方法

1 ［スタート］-［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

③ パスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると次のようになります。

- 「Password= 」と表示される
- 画面が消えた状態になる（タイマ・オン機能が設定されているとき）

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
ユーザパスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。

☞ キーフロッピーディスクの使いかた
➪「本節 1-ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

・パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

起動時にユーザパスワードを入力した場合

インスタントセキュリティ状態、スタンバイ機能、休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

・スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。
スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。

☞「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
➪「本節 2 スーパーバイザパスワード」

起動時にスーパーバイザパスワードを入力した場合

インスタントセキュリティ状態やスタンバイ機能を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはスーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードの入力は受け付けません。
休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

・スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。
スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。

☞「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
➪「本節 2 スーパーバイザパスワード」

5

再セットアップ

本製品に同梱されているリカバリ CD またはカスタム・リカバリ CD を使って、
システムやアプリケーションをご購入時の状態に戻すことができます。
本章では、リカバリ CD およびカスタム・リカバリ CD の
使いかたについて説明します。

再セットアップとは

システムやアプリケーションをご購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

再セットアップが必要なとき

次のようなときに、再セットアップしてください。

●C ドライブをフォーマットしてしまった
●ハードディスク内のシステムファイルを削除してしまった
●電源を入れても、システム（Windows）が起動しない
●パソコンが正しく動作しない
●プレインストールされていたアプリケーションを削除したが、もう 1 度インストールしたい　など

再セットアップする前に

「7 章 困ったときは」に、いろいろなトラブル解決方法が書かれています。そちらをご覧のうえ、解決できないときに再セットアップしてください。再セットアップすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。ご購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存してください。

また、ハードウェアなどの設定は、すべてご購入時の状態に戻ります。再セットアップ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

リカバリCD／カスタム・リカバリCDとは

リカバリCDとは（Windows XP／2000モデル）

Windows XP／2000モデルにはリカバリCD（「Product Recovery CD-ROM」）が同梱されています。
リカバリCDは、再セットアップのときに使用します。

☞「本章 3 標準システムを復元する」

Windows XP／2000モデルには、アプリケーションCD（「Application CD-ROM」）も同梱されています。アプリケーションCDは、本製品で用意されているアプリケーションが入っています。
用意されているアプリケーションなどの一覧および概要、注意事項とインストール方法については、アプリケーションCDをセットし、表示される画面をご覧ください。

・リカバリCD／アプリケーションCDは絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

❷ カスタム・リカバリCDとは（Windows 98モデル）

Windows 98モデルには次のカスタム・リカバリCDが同梱されています。

・Product Recovery CD-ROM
・アプリケーション＆ドライバCD-ROM

カスタム・リカバリCDは、再セットアップのときに使用します。
再セットアップには、次の方法があります。

● 標準システムを復元する
ご購入時の状態に戻します。プレインストールされているデバイスドライバやアプリケーションもすべて復元されます。
☞「本章 3 標準システムを復元する」

● 最小構成でシステムを復元する
Windowsのみを復元します。デバイスドライバやアプリケーションなどはインストールされませんので、通常は標準システムを復元することをおすすめします。
☞「本章 4 最小構成でシステムを復元する（Windows 98モデル）」

● アプリケーションやドライバごとに再インストールする
プレインストールされているアプリケーションのなかから、必要なアプリケーションやドライバを指定してインストールできます。
☞「本章 5 アプリケーションを再インストールする（Windows 98モデル）」

・カスタム・リカバリCDは絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

標準システムを復元する

本製品にあらかじめインストールされているWindowsやアプリケーションを復元し、ご購入時の状態に戻します。

・復元の途中、一定時間キーを押さない（アキュポイントⅡの操作を含む）場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。画面を表示するには、Shiftキーを押すか、アキュポイントⅡを動かしてください。

1 準備

必要なもの

次のものを使用します。

● Product Recovery CD-ROM

●取扱説明書（本書）

ドライブが内蔵されていない場合、外付けCD-R/RWドライブ（型番：PACDR002）などをご用意ください。

アプリケーションモデルの場合は、上記に加えて製品に同梱されている次のものを使用します。

● Microsoft® Office XP ProfessionalまたはMicrosoft® Office XP Personal CD-ROM

● Microsoft® Bookshelf® Basic CD-ROM

準備

● 必要なデータを保存する
システムを復元すると、ハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは、フロッピーディスクなどにあらかじめバックアップをとって保存してください。

● パソコンを購入時の状態に戻す
増設したハードディスクドライブやメモリなど、ご購入後に追加した周辺機器を取りはずしてください。

☞ 周辺機器の取りはずし ➪「3章 本体の機能」

操作手順

Windows XP ／ 2000 モデルの場合

1 AC アダプタと電源コードを接続する

2 「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットして、パソコンの電源を切る

●ドライブが内蔵されていない場合

パソコンの電源を切り、外付け CD-R/RW ドライブなどを接続してから、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットしてください。

3 キーボードの C キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

「復元を開始します！よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

4 復元を行う場合は Y キーを、行わない場合は N キーを押す

Y キーを押すと、「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

5 復元を実行する場合は Y キーを、復元を中止する場合は N キーを押す

復元中は、次の画面が表示されます。

6 表示されるメッセージに従って復元を行う

復元中に次のメッセージが表示された場合CDを入れ替え、Enter キーを押してください。処理が続きます。

5 章 再セットアップ

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

初期インストールソフトウェアの復元

「初期インストールソフトウェアの復元」は完了しました。

CD-ROMやフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを押して、マシンを再起動してください。

7 CDを取り出し、何かキーを押す

システムが再起動します。

外付けCD-R/RWドライブなどを接続している場合は、パソコンの電源を切りドライブを取りはずしてください。取りはずした後、電源を入れます。

8 Windowsのセットアップを行う

☞ Windowsのセットアップについて ➪「1章 2-2 Windows XPのセットアップ」
「1章 2-3 Windows 2000のセットアップ」

ご購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、お客様ご自身で追加されたアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

☞ 周辺機器の接続について ➪「3章 9 インタフェースへの接続」

アプリケーションモデルの場合

Microsoft Office (*1) は、以上の手順では復元されません。

Windowsのセットアップが終了した後に、アプリケーションのパッケージに同梱されている説明書を必ず参照のうえ、復元してください。

(*1) Microsoft® Office XP Professional または Microsoft® Office XP Personal

Windows 98モデルの場合

1 ACアダプタと電源コードを接続する

2 「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットして、パソコンの電源を切る

●ドライブが内蔵されていない場合

パソコンの電源を切り、外付けCD-R/RWドライブなどを接続してから、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットしてください。

3 キーボードの C キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

「復元する構成を選択してください」のメッセージが表示されます。

4 1 キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」のメッセージが表示されます。

5 復元を実行する場合は Y キーを、復元を中止する場合は N キーを押す

復元中は、次の画面が表示されます。

6 表示されるメッセージに従って復元を行う

復元中に次のメッセージが表示された場合CDを入れ替え、Enter キーを押してください。
処理が続きます。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

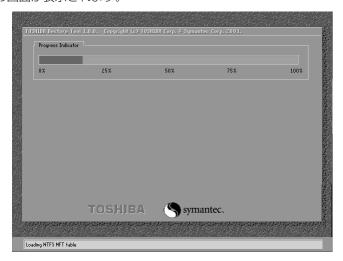
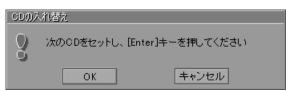
初期インストールソフトウェアの復元

「初期インストールソフトウェアの復元」は完了しました。

CD-ROMやフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを
押して、マシンを再起動してください。

7 CDを取り出し、何かキーを押す

システムが再起動します。
外付けCD-R/RWドライブなどを接続している場合は、パソコンの電源を切りドライブを取りはずしてください。取りはずした後、電源を入れます。

8 Windowsのセットアップを行う

☞ Windowsのセットアップについて ➪「1章 2-4 Windows 98のセットアップ」

ご購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、お客様ご自身で追加されたアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

☞ 周辺機器の接続について ➪「3章 9 インタフェースへの接続」

アプリケーションモデルの場合

Microsoft Office（*1）は、以上の手順では復元されません。
Windowsのセットアップが終了した後に、アプリケーションのパッケージに同梱されている説明書を必ず参照のうえ、復元してください。

（*1）Microsoft® Office XP Professional または Microsoft® Office XP Personal

最小構成でシステムを復元する(Windows 98モデル)

Windowsのみを復元することができます。最小構成でシステムを復元します。ご購入時にプレインストールされていたデバイスドライバやアプリケーションなどはインストールされませんので、通常は標準システムを復元することをおすすめします。
最小構成で復元した場合は、Windowsのセットアップ終了後、本製品に同梱されている「アプリケーション＆ドライバCD-ROM」から、必要なデバイスドライバおよびアプリケーションをインストールしてください。
また、Windowsのセットアップの画面が、パソコンご購入後初めて電源を入れるとき、または標準システムの復元時と異なります。また、Windowsのセットアップに時間がかかります。途中、作業画面が止まったように見えるときがありますが、間違って電源を切ったりしないでください。

・最小構成でシステムを復元する場合でも、標準システムを復元する場合と同じディスク使用量（ご購入時のディスク使用量）が必要です。

1 準備

必要なもの

● Product Recovery CD-ROM
● 取扱説明書（本書）

ドライブが内蔵されていない場合、外付けCD-R/RWドライブ（型番：PACDR002）などをご用意ください。

準備

● 必要なデータを保存する
システムを復元すると、ハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは、フロッピーディスクなどにあらかじめバックアップをとって保存してください。
● パソコンを購入時の状態に戻す
増設したハードディスクドライブやメモリなど、ご購入後に追加した周辺機器を取りはずしてください。

☞ 周辺機器の取りはずし ➪「3章 本体の機能」

● Product Keyを書き写す
最小構成で復元した場合は、Windowsセットアップ時にProduct Keyの入力が必要です。Product Keyはパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。あらかじめ紙などに書き写しておいてください。

② 操作手順

⚠ 注 意　・復元する際にハードディスクのフォーマットを行います。ハードディスクの内容はすべて削除されますので、必要なデータがある場合には、あらかじめフロッピーディスクなどに保存してください。
ハードウェア構成を変更している場合には、本パソコンをご購入時の状態に戻してから、システムの復元を行ってください。

1 ACアダプタと電源コードを接続する

2 「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットして、パソコンの電源を切る

●ドライブが内蔵されていない場合
パソコンの電源を切り、外付けCD-R/RWドライブなどを接続してから、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットしてください。

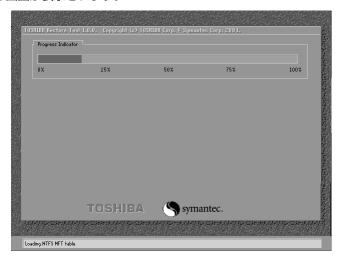
3 キーボードの[C]キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

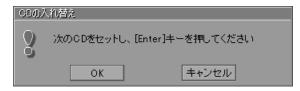
「復元する構成を選択してください」のメッセージが表示されます。

4 [2]キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」のメッセージが表示されます。

5 復元を実行する場合は[Y]キーを、復元を中止する場合は[N]キーを押す

復元中は、次の画面が表示されます。

6 表示されるメッセージに従って復元を行う

復元中に次のメッセージが表示された場合CDを入れ替え、[Enter]キーを押してください。処理が続きます。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

初期インストールソフトウェアの復元

「初期インストールソフトウェアの復元」は完了しました。

CD-ROMやフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを押して、マシンを再起動してください。

7 **CD を取り出し、何かキーを押す**

パソコンが再起動し、［最小構成の復元］画面が表示されます。

8 **表示されるメッセージを確認し、何かキーを押す**

［Windows セットアップの確認］画面が表示されます。

9 **Enter キーを押す**

Windows セットアップウィザードが起動します。

10 **Windows のセットアップを行う**

画面の指示に従って操作してください。

セットアップ途中に、［最小構成システムへ復元時に必ずお読みください。］画面が表示されます。最小構成でシステムを復元した時の注意事項が書かれていますので、必ずお読みください。表示されていない部分を見るには、▲ ▼ボタンをクリックするか、PgUp キー、PgDn キーを使って画面を動かしてください。
読み終わったら、［閉じる］ボタン（ ✕ ）をクリックし、画面を閉じてください。

ご購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、お客様ご自身で追加されたアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

☞ 周辺機器の接続について ➪「3 章 9 インタフェースへの接続」

アプリケーションを再インストールする(Windows 98 モデル)

Windows 98 モデルにプレインストールされているアプリケーションやドライバを一度削除してしまっても、必要なアプリケーションを指定して再インストールすることができます。
再インストールには「アプリケーション＆ドライバ CD-ROM」を使用します。

1 操作手順

1 「アプリケーション＆ドライバ CD-ROM」をセットする

●ドライブが内蔵されていない場合
パソコンの電源を切り、外付け CD-R/RW ドライブなどを接続してから、「アプリケーション＆ドライバ CD-ROM」をセットしてください。

アプリケーション＆ドライバ CD-ROM は、複数枚入っている場合があります。

2 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[開く] ボタンをクリック、または [このプログラムを上記の場所から実行する] を選択し [OK] ボタンをクリックしてください。

・すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。